

マクロ経済統計 パート (2)

—マクロ経済学—

山田知明

明治大学

2021 年度講義スライド (2)



失業

- なぜ失業が問題なのか?
 - 就業する意思と能力がある人が働く先を見つけられない
 - 本人や家族の経済的困難につながる
 - 生産資源を有効に利用していない
- 若年層の失業：「働く」事の重要性
 - **新卒採用制度** (新卒 vs 既卒 ⇒ 第2新卒)
 - 社会的疎外や犯罪
- 中高年齢層の失業
 - スキル (技術) の喪失
 - キャリアパスの変更・喪失

日本的雇用慣行

1. 終身雇用

- 若者の支持が高まっている (なぜ??)

2. 年功賃金 (年功序列型賃金)

- 暗黙の契約理論 (Implicit Contract)

3. 企業別労働組合

- ジョブ型とメンバーシップ型

- スペシャリスト vs ジェネラリスト

- On-the-Job Training (OJT)

「終身雇用」の支持割合 (%)

調査年	1999	2000	2001	2004	2006	2011	2015
20-29	72.3	73.5	64.0	65.3	81.1	84.6	87.3
30-39	69.1	72.0	72.6	72.1	85.9	86.4	88.4
40-49	70.8	77.3	74.6	76.9	86.5	87.8	88.6
50-59	71.0	77.1	78.9	80.0	86.0	85.2	88.1
60-69	75.4	80.1	78.4	82.6	86.5	89.8	88.1
70-	83.2	84.0	85.0	85.4	87.7	88.7	87.1

- 労働政策研究・研修機構「第7回勤労生活に関する調査」

失業

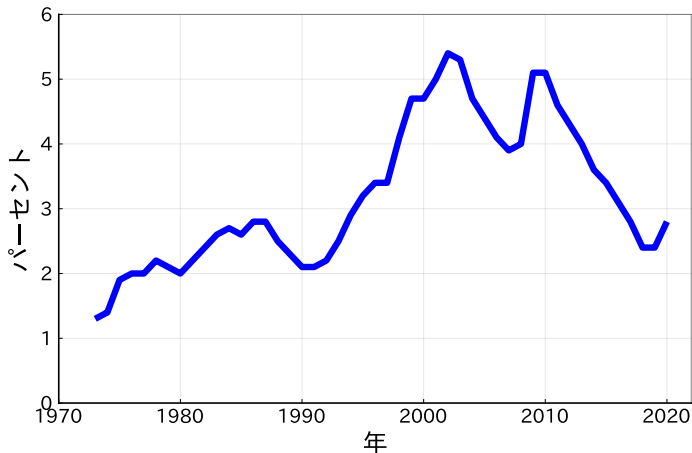
- 失業問題の社会的側面
 - せっかく育てた人材 (教育投資) をフル活用していない
 - 工場の閉鎖 ⇒ 地域コミュニティの変化 (崩壊)
 - 税金を支払う人が減少 (逆に社会保障給付を受ける人は増加)
⇒ 公共サービスの低下
 - 犯罪率の増加
- 社会保険制度とセーフティネット (安全網)
 - 雇用保険 (失業保険)
 - インセンティブとセーフティネットのバランスが必要
 - 多くの開発途上国では未発達

失業統計

- 失業率 (Unemployment Rate)
 - 労働力調査：総務省統計局

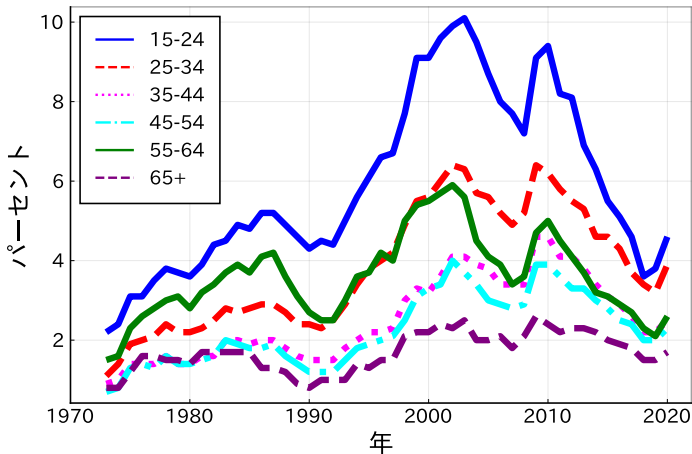
$$\begin{aligned}\text{失業率} &= \frac{\text{失業者数}}{\text{労働力人口}} \\ &= \frac{\text{失業者数}}{\text{就業者数} + \text{失業者数}}\end{aligned}$$

完全失業率の推移



データ：総務省「労働力調査」

年齢階層毎の完全失業率



データ：総務省「労働力調査」

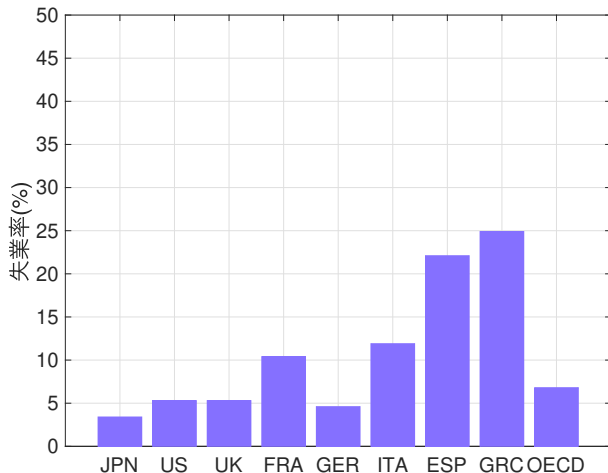
失業の定義と問題点

- 完全失業者の定義
 1. 現在、仕事をしていない
 2. すぐに就業が可能
 3. 仕事を探していた
- 失業が長引いたり失業率が高まると、**勤労意欲喪失労働者 (Discouraged Workers)** が出てくる
 - 例：失職した女性が専業主婦になる
 - 景気回復時に失業率が高まる
 - 就業意欲がない人は失業率にカウントされない
＝NEET の増加は失業率の増加につながらない

失業率の国際比較

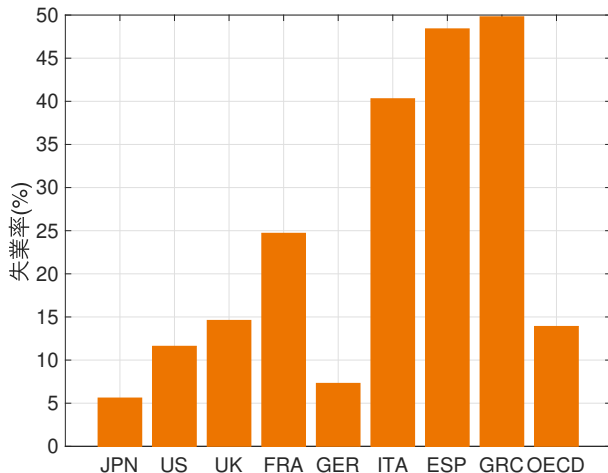
- 失業率の国際比較
 - 日本の失業率は世界的には非常に低い (かった?)
 - ただし、2000 年代にアメリカと逆転
 - 欧州の失業率はかなり高め

失業率：15 歳以上男女 (2015 年)



データ：OECD(<http://stats.oecd.org/>)

失業率：15 歳-24 歳男女 (2015 年)

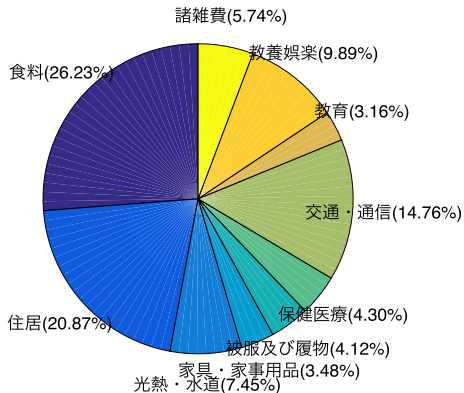


データ：OECD(<http://stats.oecd.org/>)

物価の測定

- 財・サービスの価格は上昇したり下落したりする
 - 例 1：2008 年のガソリン価格上昇
 - 例 2：家電製品や PC 等の価格は低下傾向
- インフレーション
 - 財・サービス価格の全般的な上昇
 - コストプッシュ/ディマンドプル
- 物価指数 (Price Index) を作成
 - 日常生活で購入する身の回りの財・サービス価格を集計
 - ウェイト付けして評価 ⇐ バスケット
 - 消費者物価指数 (CPI: Consumer Price Index)
 - 総務省統計局

CPI バスケットの中身



総務省統計局 (2015) 「消費者物価指数のしくみと見方」 より作成

インフレーションのもたらす諸問題

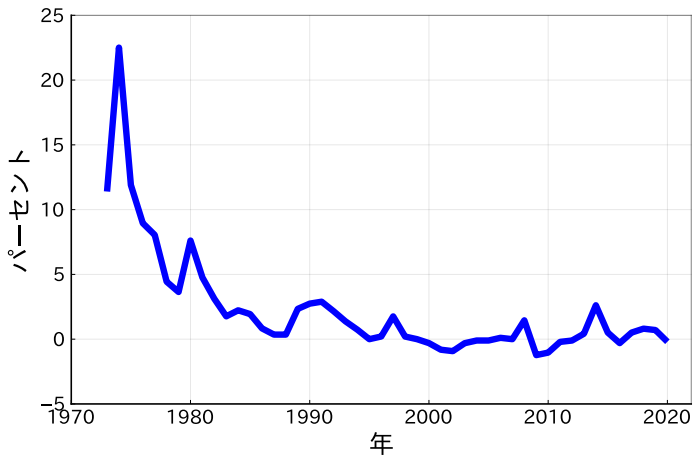
- インフレーション

- 一般物価水準の上昇
- 年金や賃金はインフレ率で調整される場合がある
- ハイパーインフレの例
 - 第一次世界大戦後のドイツ
 - ジンバブエ

- デフレーション

- 一般物価水準の下落
- お金の貸し借りにも影響
 - インフレ：債権者 (お金の借り手) が有利
 - デフレ：債務者 (お金の貸し手) が有利

消費者物価指数



価格硬直性

市場メカニズム

需要と供給に基づく価格調整はうまく働くか？

- 価格は硬直的・粘着的なのだろうか？
 1. Yes：物価変動幅は小さい
 - 実質賃金の調整速度は遅い
 2. No：個別品目の価格改定頻度は高い
 - Nakamura and Steinsson (2008,QJE)、肥後・才田 (2007,BOJ)
- 意見の対立大！
- 物価をより正確に測ろうという試み：東大日時物価指数
<https://sites.google.com/site/twatanabelab/home-2>

キーワード

失業、新卒採用制度、終身雇用、年功賃金、企業別労働組合、ジョブ型、メンバーシップ型、On-the-Job Training (OJT)、セーフティネット、完全失業率、勤労意欲喪失労働者、NEET、インフレーション、デフレーション、消費者物価指数、価格硬直性

Exercise:

1. 名目 GDP と実質 GDP の違いについて説明しなさい。
2. なぜ輸出が GDP に加算される一方で輸入は GDP から除かれるのかを説明しなさい。
3. 2020 年の一人あたり GDP はどの国が一番大きいか調べて見よう。
4. 新卒採用制度について説明しなさい。
5. デフレの問題点について説明しなさい。